佐賀県における吸入療法サポート研修会の取り組み

学術疾病委員

安川　徹

はじめに

単なる飲み薬と異なり、吸入薬は複雑な操作を患者に要求する。操作が難しいデバイスや、吸入する力が必要なデバイスなどは患者にとってアドヒアランスを低下させる要因となり、ひいては効率的な治療が行えなくなる可能性が出てくる。吸入薬の服薬指導は薬剤師の技能を活かせる場であり、佐賀県では吸入療法サポート研修会を開催することで県内の薬剤師に対する支援を行なっている。今回はその取り組みと今後の方針を報告する。

佐賀県における吸入療法研修

年に2回程度、佐賀市とそのほかの地区で研修を開催。（2019年度は佐賀市と鳥栖市で開催。）佐賀大学医学部付属病院より講師を招き、最新の吸入療法を医師によって解説。また2018年度は実際のデバイスを用いて薬剤師や患者が陥りやすいピットフォール（陥りやすい間違い）を実演。さらに吸入治療に関する処方解析のグループディスカッションやロールプレイを通じて薬剤師の技能向上を図る。

今後の方針

佐賀市とこれまで研修会を行った回数が少ない地域で開催することで、県全体の薬剤師に対する支援を拡充する。また吸入療法サポート薬剤師認定支援制度を創設する。本制度は薬剤師の吸入療法に対する知識と技能の向上を狙う。さらにどこの薬局に行けば吸入療法についての指導を行なってくれるのか医師や患者が判断する一定の指標となることが期待される。

最後に

吸入薬は通常の飲み薬と違いアドヒアランスが低い。吸入薬を使用しないことによる弊害を患者が理解していない、吸入操作の間違い、そもそも操作ができないなど薬剤師が気づける点は多く、アドヒアランスの向上に貢献することで、より高い治療効果が期待できる。吸入療法サポート研修会を通じて今後もより多くの薬剤師を支援し、佐賀県全体の吸入療法の技能・知識向上の一助としたい。